足利風

ａｓｈｉｋａｇａ－ｆｕ

2025
冬号
Vol.92

画：伊村恵利佳
書：風喜人

足利市民活動センター

開館時間：平日　１０：００～１９：００
休館日　：土・日・祝日・第３月曜日
〒326-0052
栃木県足利市相生町１－１
　足利市生涯学習センター３Ｆ
TEL　0284（44）7311
FAX　0284（44）7312
Mail　info@shimin-act.jp
HP　http://www.shimin-act.jp

HP QR コード

☆　ご案内　☆

＊特集！
「毎日住境～渡良瀬は人道の稽古場～」
＊言葉のあやとり
「SUSTAINABILITY」
＊私のボランティアことはじめ
「豊かな絵本ワールド」
＊マチのちゃぶ台
「足尾から移築され取り壊された
旧足利市庁舎」
＊INFORMATION

＊特集！＊　　「“毎日佳境”～渡良瀬は人道の稽古場～」

♪渡良瀬橋で見る夕日を　あなたはとても好きだったわ
　きれいなとこで育ったね　ここに住みたいと言った
　・・・
　あなたが好きだと言ったこの街並みが　今日も暮れてゆきます
　ひろい空と遠くの山々　二人で歩いた街　夕日がきれいな街

森高千里「渡良瀬橋」

明治２４年（１８９１）弱冠１９歳の荻野萬太郎を中心に、２～３０代の青年経営者たち（ほとんどが繊維の旦那衆）が、企業倫理の確立や社会貢献を進めるための「足利友愛義団」を結成した。日本最初期のＮＰＯとも言える。
足利人が全国に誇れることではある。

そのボランタリーな地域活動の最盛期には“鉱毒救済会”を組織し、谷中村の田中正造を、物心両面から全面支援した。市民公益活動のさきがけである。

田中正造は、渡良瀬を“人道の稽古場”として“天国への道普請”をし続けた。その苦難に満ちた生涯を、作家・城山三郎は小説「辛酸」で書いた。辛酸佳境に入る～の意である。足利高校での講演後に色紙に「一日一生」と揮毫した。

相田みつをに多大な影響を与えた、元日光市長であり、書画に秀でた歌人・文化人であった清水比庵の軸には「毎日佳境」というものがある。味わい深いその書を、私は時々観ては、比庵の正造への尊敬の想いを確かめている。

一切の穢れをさえ光らせる赤い残照が川面に映る渡良瀬の伏流水のように、田中正造の至高の精神が足利に暮らす人々の心根に宿っていると思いたい。

渡良瀬の風の道に沿って、時代は流れる。足利の詩人・三田忠夫（文林創設者）は“渡良瀬”を謳っている～時は移り　いま渡良瀬川は　高手小手に縛りあげられた罪人のように　神妙な顔つきで流れている　人間の企みを横目に見ながら・・・稀には天の助成を恃んで一遍勝負を挑んでみるが　事は常に不発に終わった　つまり男でなくなった男　それが渡良瀬川の相貌なのだ・・。　　（Ｍ生）

＊言葉のあやとり＊

「ＳＵＳＴＡＩＮＡＢＩＬＩＴＹ＝持続可能性～サスティナビリティ！
～ある物や事を、下から支えて維持する能力」

＊主語は「私たち」！

＊ＳＤＧｓ⇒持続可能な開発！
～将来世代と現代世代がどのような関係にあるべきか？！

＊“守る”　“作る”　“つなげる”

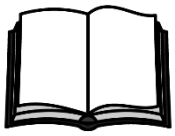
＊“風土”　のサスティナビリティ！～

＊私のボランティアことはじめ＊

「豊かな絵本ワールド」

中島由貴子

大人になってから、絵本を手に取ったことはありますか？
私は、大学時代、臨床心理学の授業で絵本をよみきかせしてもらったことがきっかけで絵本に興味を持ちました。大人になってからのよみきかせは心地良く、先生のよみきかせに心を打たれたのです。
そこからは、書店に行く度に、絵本コーナーに行くようになり、その度に素敵な絵本との出逢いがありました。あっという間に読めてしまうにも関わらず、心が軽くなったり、幸せな気分を味わえたり、思わず笑顔になってしまったり、深く考えさせられたりするのです。その時の置かれた状況によって心に響く絵本にも変化が見られ、まるで処方箋のようなのです。
毎年、市民活動センターの読書サロンでたくさんの絵本を読ませていただいているのですが、参加された皆さんが、「絵本っていいね！！」とおっしゃってくれます。人によって心に響く絵本が異なるのも面白いです。絵本は子どものものというイメージが強いと思いますが、大人だからこそ絵本を味わってみてはいかがでしょうか？自分を支えてくれる１冊との出逢いがあるはずです。



絵本庵というサークルでは、その月のテーマの絵本を持ち寄り、メンバーで絵本をよみあっています。興味のある方は、070-9013-8788 までご連絡下さい。

＊マチのちゃぶ台＊

「足尾から移築され取り壊された旧足利市庁舎」

北村　隆

現在利用されている市庁舎が、幾つかの理由から取り壊され新たな市庁舎に建て替えられる計画があるようです。
現市庁舎の前の庁舎は、足尾の某鉱業所が所有していた建造物を、足利が譲り受けて移築されました。今は解体されて有りません。
『近代足利市史　第四巻　資料編　近現代Ⅰ』には大正 11 年１月１日より使用を開始したと記されています。この建物を移築するための土地の確保や落成式の様子、或いは屋根が銅板葺で二階建てであったことなどが記載されています。
「三田忠夫編『ふるさとの想い出　写真集　明治・大正・昭和』国書刊行会」には消滅した旧市庁舎の昭和時代のカラー写真が掲載されています。その庁舎前の通りを通行していた車両などからも当時の市民や市職員の活動の様子や思いが色々と想像できます。
時代を遡って旧庁舎が移築され利用され出した大正 11 年前後は、織物業における近代建築物が何棟も建設され、商店街や料亭なども繁盛していた時代でした。足利は大いに賑わい極めて活力があったことが思い起こされます。そして元気がでるイメージが湧き上がってきます。それらのことは、私達に当時の足利をもっと知りたいという強い好奇心や柔軟で深い郷土愛に繋がる意欲を与えてくれます。そして庁舎の建て替えの話題が出て来る時期は、近未来や遠い将来の足利や両毛地域を推量し、洞察する絶好の機会であることを私達に必然的に認識させてくれます。

＊INFORMATION＊

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんとご一緒に、ワイワイガヤガヤ・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和７年１月１７日（金）　ＰＭ２：００～４：００
　＊　本　　:「暮らしの手帖」（花森安治）
　＊案内人　：　加納　道子　さん

★令和７年２月２１日（金）　ＰＭ２：００～４：００
　＊　本　　:「明治人の姿」（櫻井よしこ）
　＊案内人　：　白田　明　さん

★令和７年３月２１日（金）　ＰＭ２：００～４：００
　＊　本　　:「世界共和国へ」（柄谷行人）
　＊案内人　：　北村　隆　さん

■参加費：無料
■会　場/問い合わせ：足利市民活動センター☎４４－７３１１

☆「企画展」（交流コーナー）　（土・日・祝日・第３月曜日は休館日）

＊１月　６日（月）～１月１６日（木）　新春能面展
＊１月２１日（火）～１月３０日（木）　私の好きなモノ展
＊２月　３日（月）～２月１３日（木）　お茶と暮らしの水彩画展
＊２月１８日（火）～２月２７日（木）　「足利の風」原画展
＊３月　３日（月）～３月１３日（木）　東日本大震災

※展示時間・・・１０：００～１９：００　ただし最終日は１５：００まで

☆「相談室」

＊相談室　＝　１月１５日（水）14：00～16：00「NPO,ボランティアのための社会保険」
　２月　８日（土）13：00～15：00　「SDGｓのすすめ」
　３月　８日（土）13：00～15：00　「腰痛について」

編集後記

蕎麦（そば）好きだ。東京には～昼はさらりと粋にそば。夜はほろ酔いあなたのおそば～などと看板にした蕎麦屋がある。足利は蕎聖・片倉康雄が“そば学校”を拓いた地だ。全国に弟子が広がっている。二代目の方の“西神田”の店には良く通ったものだ。美味しかった。三代目の方の“横浜元町一茶庵”にも時々お邪魔した。十年程前に閉業されて、今は“一茶庵手打ちそば教室”を運営し、これまでに４００店以上の蕎麦屋開業をサポートして、“蕎麦打ちの道”を極めている。私は、マザー・テレサから「愛の反対は無関心」とボランティアの心得を教えられてから半世紀・・私は未だ、ボランティアの道半ば・・ではある。（カサブランカ）